

平成19事業年度財務諸表の概要

貸借対照表の概要

(単位:百万円)

平成18年度	平成19年度	平成18年度	平成19年度
固定資産 35,033	固定資産 37,220 (2,187)	固定負債 12,417	固定負債 13,827 (1,410)
内訳	内訳	流動負債 5,684	流動負債 7,705 (2,021)
有形固定資産 34,567	有形固定資産 36,581	資本金 20,413	資本金 20,413
無形固定資産 111	無形固定資産 85	資本剰余金 1,438	資本剰余金 1,699 (261)
投資その他資産 354	投資その他資産 553	利益剰余金 2,422	利益剰余金 3,446 (1,024)
流動資産 7,341	流動資産 9,872 (2,531)		
42,375	47,092 (4,717)	42,375	47,092 (4,717)

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しているため、合計金額は必ずしも一致しません。

下段()書きは対前年度増減額

【主な増減理由】

・資産関係(固定資産・流動資産)

平成19年度末現在の資産の合計は前年度比4,717百万円増の47,092百万円となっている。主な増加理由としては、有形固定資産の内、建設仮勘定が附属病院の再開発事業による建設中建物の増加等により1,958百万円増となっていること。また、それに伴い、未払金が増えたことにより、流動資産の現金及び預金が2,542百万円増となったことなどが挙げられる。

・負債関係(固定負債・流動負債)

平成19年度末現在の負債の合計は前年度比3,341百万円増の21,533百万円となっている。主な増加理由としては、長期借入金が附属病院の再開発事業により1,691百万円増の2,595百万円となったこと。また、それに伴い、流動負債の未払金が2,058百万円増の4,161百万円となったことなどが挙げられる。

・純資産関係(資本金・資本剰余金・利益剰余金)

平成19年度末現在の純資産の合計は前年度比1,285百万円増の25,559百万円となっている。主な増加理由としては、資本剰余金が、建物の改修等により261百万円増の1,699百万円となったこと。当期純利益が1,132百万円となったことなどが挙げられる。

損益計算書の概要

(単位:百万円)

	平成18年度	平成19年度
経常費用	24,460	25,456 (996)
業務費	23,502	24,498
一般管理費	680	686
財務費用	277	270
その他	0	1

臨時損失	56	52 (4)
------	----	------------

当期総利益	991	1,346 (355)
-------	-----	----------------

	平成18年度	平成19年度
経常収益	25,097	26,603 (1,505)
運営費交付金収益	8,936	9,465
授業料等収益	3,068	3,056
附属病院収益	11,434	12,360
受託研究等収益	342	371
寄附金収益	447	439
補助金等収益	56	82
その他	814	828

臨時利益	2	38 (36)
------	---	------------

目的積立金取崩額	407	213 (194)
----------	-----	---------------

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しているため、合計金額は必ずしも一致しません。

下段()書きは対前年度増減額

【主な増減理由】

・経常費用

平成19年度の経常費用は996百万円増の25,456百万円となっている。主な増加要因としては、業務費のうち、受託研究の増加に伴い70百万円増の332百万円となったこと、患者数の増加、手術件数の増加により医薬品等の購入が増加したことにより、診療経費が426百万円増の7,928百万円となったことなどが挙げられる。

・経常収益

平成19年度の経常収益は1,505百万円増の26,603百万円となっている。主な増加要因としては、受託研究等収益が、受託研究費の受入の増加に伴い36百万円増の280百万円となったこと、附属病院収益が、患者数及び手術件数の増加等に伴い、925百万円増の12,360百万円となったことが挙げられる。

・当期総利益

上記経常損益の状況及び臨時損失として固定資産除却損52百万円、臨時利益として38百万円、目的積立金を使用したことによる目的積立金取崩額213百万円を計上した結果、平成19年度の当期総利益は355百万円増の1,314百万円となっている。

キャッシュフロー計算書の概要

(単位:百万円)

	平成18年度	平成19年度
業務活動によるキャッシュフロー	2,386	2,980
・原材料、消費またはサービスの購入による支出		(594)
・人件費支出		
・運営費交付金収入		
・授業料・入学料・検定料収入		
・附属病院収入 等		
投資活動によるキャッシュフロー	1,579	885
・有形固定資産及び無形固定資産の取得による支出		(694)
・施設費による収入 等		
財務活動によるキャッシュフロー	583	447
・長期借入による収入		(1,030)
・長期借入の返済による支出		
・リース債務の返済による支出 等		
資金に係る換算差額	-	-
資金増加額	223	2,542
		(2,319)
資金期首残高	4,622	4,846
		(224)
資金期末残高	4,846	7,388
		(2,542)

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しているため、合計金額は必ずしも一致しません。

下段()書きは対前年度増減額

【主な増減理由】

・業務活動によるキャッシュフロー

平成19年度の業務活動によるキャッシュフローは594百万円増の2,980百万円になっている。主な増加要因としては、附属病院収入が762百万円増の12,228百万円となったことが挙げられる。

・投資活動によるキャッシュフロー

平成19年度の投資活動によるキャッシュフローは694百万円増の885百万円になっている。主な増加要因としては、附属病院再開発事業による施設費による収入が794百万円増の1,068百万円となったことが挙げられる。

・財務活動によるキャッシュフロー

平成19年度の財務活動によるキャッシュフローは1,030百万円増の447百万円になっている。主な増加要因としては、附属病院再開発事業による長期借入による収入が1,109百万円増の1,734百万円となったことが挙げられる。

利益の処分に関する書類(案)

(単位:百万円)

	平成18年度	平成19年度 (案)
当期末処分利益	991	1,346
・当期総利益	991	(355) 1,346
利益処分額		
・積立金	197	540 (343)
・目的積立金 教育研究診療及び組織運営等積立金	794	806 (12)

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しているため、合計金額は必ずしも一致しません。

下段()書きは対前年度増減額

【概要】

当期末処分利益は355百万円増の1,346百万円となっております。この当期末処分利益のうち、現金の裏付けのある806百万円については、中期計画の剰余金の使途において定めた教育研究診療等の質の向上に当てるため、「教育研究診療及び組織運営等積立金」として文部科学大臣に申請しております。

コスト計算書の概要

(単位:百万円)

	平成18年度	平成19年度
業務費用	9,011	9,052 (41)
(1) 損益計算上の費用	24,516	25,508 (992)
・業務費		
・一般管理費 等		
(2) (控除) 自己収入等	15,505	16,456 (951)
・授業料・入学科・検定料収益		
・附属病院収益		
・受託研究等収益 等		
損益外減価償却等相当額	649	593 (56)
損益外減損損失相当額	1	1 (0)
引当外賞与増加見積額	-	70 (-)
引当外退職給付増加見積額	102	379 (276)
機会費用	377	292 (85)
国または地方公共団体の無償または減額された 使用料による賃借取引の機械費用 政府出資等の機会費用		
(控除) 国庫納付額	-	-
国立大学法人等業務実施コスト	9,937	9,488 (448)

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しているため、合計金額は必ずしも一致しません。

下段()書きは対前年度増減額

【主な増減理由】

平成19年度の国立大学法人等業務コストは448百万円減の9,488百万円となっている。

主な増加要因としては、業務費用において、診療経費が、患者数の増加により医薬品等の購入が増加したことにより業務費用のうち損益計算上の費用が922百万円増の25,508百万円となったことなどが挙げられる。

また、主な減少要因としては、退職者の不補充に伴い、引当外退職給付増加見積額が276百万円減の 379百万円となったことなどが挙げられる。